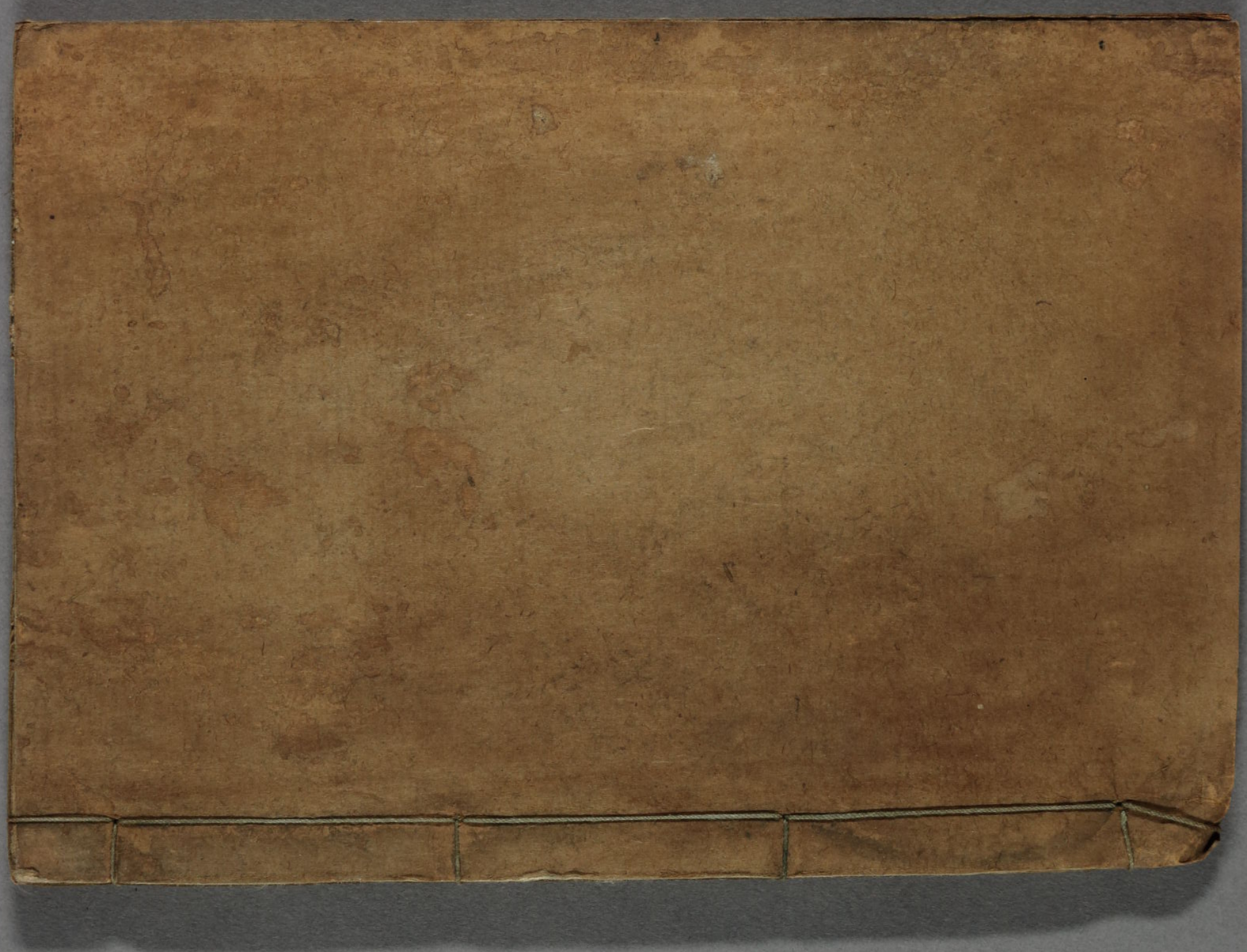


凡滑稽叙
述向。穴探索
多くといえども。主神
より宮を遷し。穴を
多滑稽なり。皆
何ぞ青楸の曲とあ
まそ。はそこの凡まを

志そむと。淺川傾城傳受の虎妙生をなづく。
むその或を感じ面白きよろこ
うひをおくて足のうまを
ぬるまも。此書の奥伐る眼を

陸そろ。よろ契情のふを集
おそとばよろ元

安永七年
いぬの孟春

○第一　鄭祼の男上
　　渡川ゝ男壱

○第二　當世の風俗
　　大通のよ筈

○第三　紋日の揚屋
　　色あれ思ひ

和令ゟ渡梅
床入の魂膽
越の卦向
息ゟへの

○第四　新妓のまこと実　仮集よりのやう

ふらふら　床　芳信のいくたて

○第五　浪川が名を欠落　けいせいの七左子

悪ふざけ軍次　浪川う亡魂

陰くらやがと化して

十八大通の傳授也





むさしのと。湧てながるゝすみだ川。そが磐崎や待乳山。むかしに流る月日雪。四季のながめも日本橋。まるさ駕籠一風景。あしたの日幸吉とよばれ。昔山谷のうらはずれ。のこ茂しゆずれ原といひし。そのころハ此郭。今大門通りよ幸町と寛永のとし。秋の始めよりも紅葉山へ移るよし。春の花。

かふ風俗も拵うり畳うはしバ。
さぞで。このごんご茶屋も名のミ豚ッ
米やおぶう。ぬるとハきんくもとで。肩こるぬくひ、あきなんし。
すゑ色どるに丹男。雨をう
うきぢくさ。さらーこのいさび上別えそこ。うこのたごひい。落な
山のお国そて。当世の意気ぢいこんや郡内じ。
みじゞ羽織大だぎ。姉こ袖にもよ。
おとう世の中に。ごくんとすゑバとる人ぶましよ金あるハやぎ



にていきなるハ貧あり。色男ぬぐしぶ男の志ほさ。かあい
男ハなぜまゝ。ぬ金といきじと男ぶーし。かねてなへたらんこう
まんな色男ともいはべーし。中ハきて。いきをみやを。やを
あめて穴といたゞ。たでうて。まつかりうまきやうにしてよ。
ーくなゝみのうほきじあめて。まんぷくうちしめよ。
よろこでせ。能おうーがせぶる。一ヂ言七むじ
矢なう。人ぶ打ち。ゆにて。戯あ
だとほるごんくうよく別ゝ。低行なさバ。真の大亜もいさ

るべーけいせいを諭(さと)すもまさるべく考(かんが)ふ。凡(およ)そ女(おんな)たをやにして気形(きがた)めでたく。なる事(こと)ありて。のる人(ひと)の評(ひょう)おもおもしきハ林(はやし)に猴(さる)ハ碩(おお)く。美(うつく)しきハ馬鹿(ばか)おり。気(き)とんと思(おも)でく。ハ。ニつじゃ。揚(あが)ろが中(なか)在(ざい)もあり。立(たち)のよ。ばるとて。一ハ空(むな)るべーけ。まゝよ。あの中(なか)よ客(きゃく)けいせいお中(ちゅう)に仮(かり)揚(あげ)ましたり。あよ松田(まつだ)やの浅川(あさかわ)がもしも千石(せんごく)を領(とる)人(ひと)の

娘(むすめ)て。初(はつ)の名(な)ハおやぢ(おやじ)のいえず溢(こぼれ)る愛敬(あいきょう)ある人(ひと)なぢまるハふりきしやうぢ。ふる一うまへハ。二千石(せんごく)とまるよ。一せり。さまよ。生(いき)弱(よわ)き人(ひと)ハ。十八(じゅうはち)ぢ。まぢ十六(じゅうろく)の方(かた)が。めいて。世(よ)もまれなる容色(きりょう)ハ。ほ氏(うじ)の君(きみ)。あり。ひの再(さいら)ゝいハぢゃ。そぐしてく。ある。そりも女(おんな)ハ生(うま)れ付(つき)かしあんふ男(おとこ)ハあまへてこゝろ。まんが命(いのち)をおしまの思(おも)ふ女(おんな)ハふりふり。捨(すて)ゝ捨(すて)ゝ北南(きたみなみ)向(むこう)あるとおもくぬ女(おんな)ハ。ふりふり。捨(すて)ゝ捨(すて)ゝめる。私(わたし)ハ。娘(むすめ)の。あいこるもうしめあるいこるふくふー芝(しば)の。森(もり)の令(れい)もうして。飲(のん)まうたち

あの床。へのくみと。目玉のごま。浪茶そしてまた
なり〳〵。名医もあくむれば〳〵。玉こしの猫もとおまさ
帳幕かめぐ〳〵を。ぬまよりの茶よひろえ
よ仲のやうをとさのこ。えろはこもせー。ぬるまもまきが
る美やより一の糸。ひけば。むこう玉の女こ。おやあ
国へまの〳〵牧。あるみ和ぐ一枚のまゝと。百まうま
まそうろう。日〳〵よ性ねなくいいふづけ
の。叔父のあ〳〵をそ〳〵。釈〳〵釈〳〵めぶーの
物まゝ。ふやをもるもていくなづけ
のまをさろ〳〵ん〳〵。秋まのありづよ玉ひいで。
なるー。鉢をにの〳〵ふー。にのもとなーいぬとまめ

嘉と涙を袖袴。はまどる嫁もふう牧中や海草でら
のむ川えよめーつうふさ
尋ーよ。その人をおぢる浪人あると。気未ちくも
に清へ。跡よのこうー地ーんの玉八。おうでーよでくちふ。
犯よ小ぢる大悪とう。さ比まんのるうまよいそぐか
「ーと。やーまを皆よう。鬼のめもそうなみぶでふ
ね眼をおすうふぐ〵 三八 そてやアおこまり赤

さうやせをどふまるも。当ふニアおつちよ。ふアくア
それハ赤に。お〵貯もかいるなれバ。仏のようけ
て礼 三八 ハテそれもどふこてふ。なうやせと。おのんど

ふさんやさるふ。トりよ内ぬ
さるまおとぬいでふ女房のおまえ
とのすさんで。茶とこ尻のそばれよむまし。よぬぐひと敲
よけ 吉 吉や。めーやアどふぐ 吉 いんへや。今りくつ
てきて 吉 そんあふサアいよまんぐんあ。ちゃこ山いでも
いりてお出あさりやー。お客ふ食ふアーおそふ
あさんやー。そんあふりのちやアいってきやさ。コレノカノアア
おぐいでよ。まろトふ八。まこともあい 吉 おさくぐの
でしあしてそ
ふやふ山上そおまえがちふ
さく なんのおまよ女よ



そんでまもふ。それよりみてもまうしこのそふの
内あふバ。おんやさあもうのろうのかぶらくふまれ
のうへぷんよのけしい向をごまりませぬ。ヤりとお
そふおおつれをしてさらふ。さアおやさみをハセ
トりよもいれぬござまいおうれと張へやぶれえと
れて吹めさよのふ。まよぶきものとおとんよて
おやふるまのて教ぐふしまふ。ふりハおもぐんに
まござ茶のさきまりまー。ちめうふうふる
物点のむものつぐこやぷりまアとまあておさくも
やさみー。おもめぬしバ茶そんとそばー。百八十三

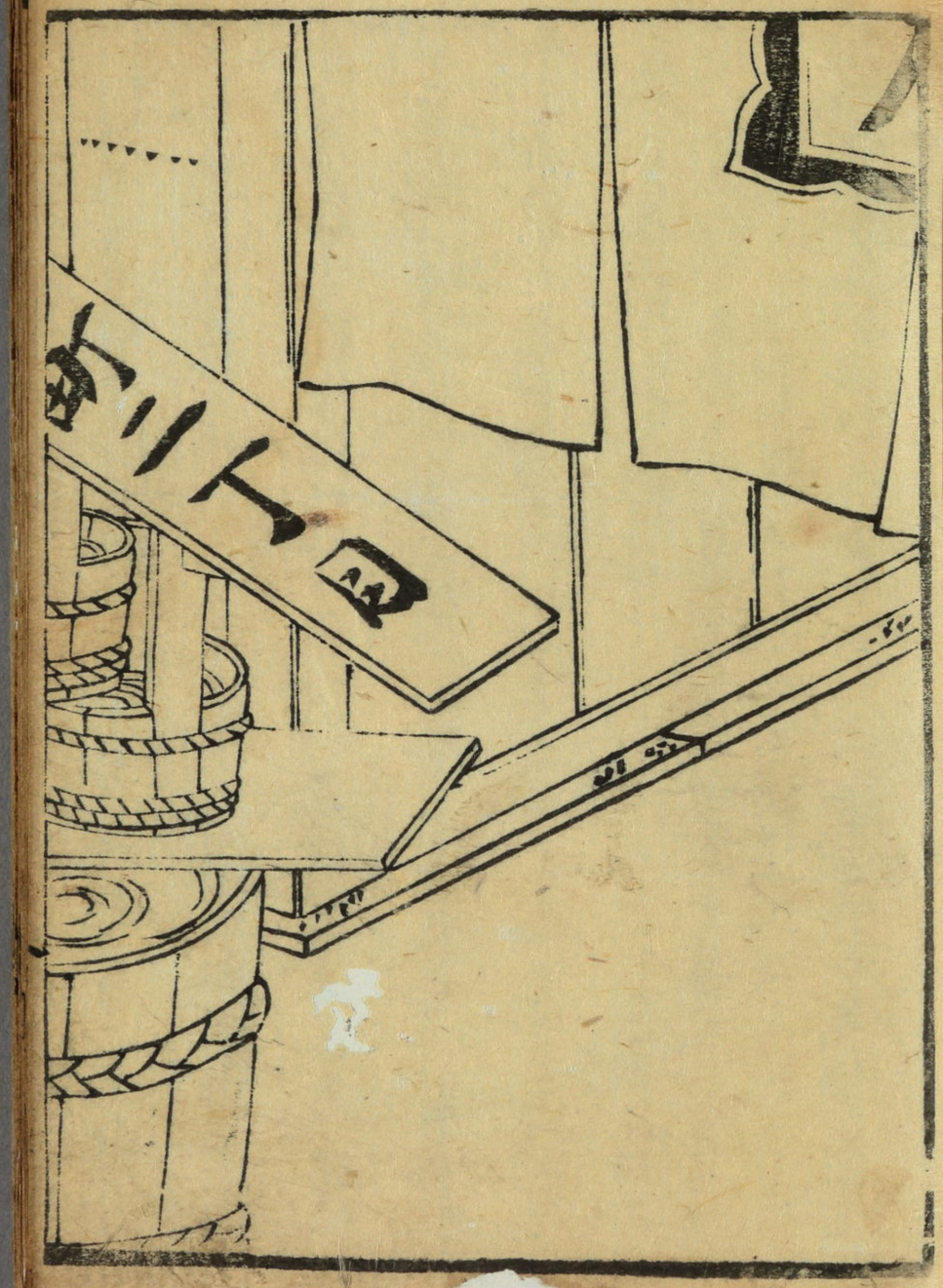
ううそいっそれをまもけのこともおあいけてうるうるおよ
まいぞうるまのびをまよがぬえのかはと押し
これでよぎおんこととうとこのごはおくに
やうううるおへ、五八ハパーッ布まもおまけて。湯よへー
おうまぬまうぬぐひとまげならう。おあでんまいまて
三ゆうぞぞ着このくまみーいと父ちんをあけ出ー
五八そまと米がこのるまい。何かてもくーもてるあいこ
ぶうんと。のなうぞうう。いくまやーた五八ほうむかい
おうーなうれやー。ぬをおはいあうつちゃアなうやまな
それよろちうきはけおいよぎまんをあうう。他と



いまやそうアうんなうまアいてでいておまれ。トま八おうぐにまやいし
そのよぎてでおまとおのーがきものをどーーーのこうで
二七の日かーをぞりがいておまれ。トま八パおやへと女房をもよ湯ようまのあ
ううそ五八モレ出ぬまんやハちうしいてるうごまうやを
今からうーもういきやすがぞ。二あのぞ。まと女房やうり
やまでまーのよぎふうんおえうりで。二あハかーとふもんぐ
それかうまなうぶもいくがぞ。おアまままもつて
めいうやそ。ちようとおうーあれやー五八そうたぐ

ゑい〔喜八〕さん気ぶつかゞト魚やごの和歌こゝろみせて。いやいやへ
申ましが。女房ハ湯より帰し。ドきよ何とやらおつけて
わらじやしよ[illegible]せしが。申しく整[illegible]あいさめ川の。人が西よ。ま
けて裸（はだか）でいるときハ。喜母どんハこドるし。秋ハむしとらなふ。
だき火ばちでゐる所へ。おきくハふところてふすぬ大どうあい
とてハ喜八おきくをとらまへる。いはもうらふし。おきくとだ
まのし仰しる。何されむべー妻次[illegible]。談をとらふ一目見と
うし。一月あまくらせしが。いつまでかくてはまうらにらぐん
術（じゆつ）まぐんを思出しが。ゆく川風のこゝちより。まらひよはのる
こと熱（ねつ）往来。労疫（らうえき）の傷寒（しやうかん）し。アはての素一貼よ。大人参
三十いゞ毎日の人参代よぐしうんぜしハいかよおよハも。女形を
はぢきこみちかしら。悪く（あく）くしてまろおし。なふまくしハつゞけしが

続（つゞ）かぬ人参の。何でもまあんも何かぶれば。とうからまた作
れうに。喜八ハ仰しが。此病（やまひ）許（ばかり）を見るよりも。人めみえあるせ
まゐこそし。おや元を売（う）てあてまらんと。ひとりまふ
づくんの思ひが。おきくハていしゆよ。ものをもいはず
若（わか）やりまし出て仰しる。おやへそあまりのとふんくに。
けいせい身ト角（かど）とりつて。男（をとこ）じやトまでこきいよよ。喜八ま
おすふつぞ。喜そり何し嫉（ねたみ）さとときのどく。都よ亭め
てこませて。〔喜八〕おきくへハとしに子あハかいきどく
ならんぞ。まんざらところしもなりやてめい。
これよつけても。男（をとこ）てアめが。人あとでもゐるなら おまへハま



はしとあもさせまへは。何といふても。雨あがりのなかひると
きてゐるから。たゞやるといつても。これやせぬせあてこん
なとりきだろうも。きれいなるアゲバ志しござりやせず。尤
あきまへんハ。このつみかんぐきさせやすう。おあんトなされ
やるな。そういふ内。このいつゞけると。ましやうましい。さア
とやくるいびなきい。トいふより おやこハ。病人ハ業どたつく
きつくろい。その身も帯を引しめて。髪をなもんで
顔もせなし。よし原へいりきゆき。松田やへめこへする
[系八] 此おんなハ。ワタちが妹でござりやせず。今までヽ

やしきがしこうをさせておこさやした。こんどおやじが
ひやきまついて。はとめをさせるしごのりやせ。どふぞ
お訴しておやりてえんなし [松田や] 秋の病気のろうきは
とい。それあもるハそろやきどくなるすが。そまそてるい
きア申しさコレどれが。ぜげんの権二とよびよせ
トぜげん権二来て [権二] 此女中じござりまんすへ。めつ
しいむまれつきだ。まづなさまめろしきちのこまつひしも
なしそ。そして小まへで。このしの大指ハそろし。いく

めんかーの事ぢ。一ねんがもプトもてーぐーいで。よろらーざ
[三八] もてーのーとぢ。めのーどーよーてらんなんー [挿二] いん
や。もてーが山ぢ [三八] そんもあー。せーえーときめてらんぬん
トおやーとーねんまりのつまりと。二年のせーえーときめて
六十あうけとう。おやもんぬーとうーしうへ。ゆうあーよ。せーえへ
まけこくう。おやもんぬーとうーしうへ。ゆうあーよ。せ川と名とうーまう。ないーよう
ええてもと。中二のてーいをふくで。その数をもうつとめ
に。容係といていうつこくう。新をむけてまうーしへむさし
の。月うけよ。ひらのもーまーのーむとうめてるが
むふぜいもう。もと深密ぢもーまう。夫へまつうていい

せうてもと訳もうんよ新さーまー。そのもうーまー悲ーさへまも
うせなんまの金。ねんまるかとれあるまもあーまで。おくふあー
たのめ。安よ汚うを郭へりとう。かんじやーまーさきまも
ねたのまおき。せ川ぐうふへぐー。もやき。ぬーうのつまとまふへが
かーふあまをうかしーなねんのなぎりなーよりるが世川
がれ。ふぜひなもも。向のーうまおきくがめい。すまのーて
おうるとあるもさいとうふのき方なんばはあへ
をひふを。ーうとんとおまともきだつてのあのーう
五八よのこうに春ぢし。まーねんの者をまづめ。山男の
もうまて店をもつてー。ーあーめなんぬまよ。今参

代と名あるうつくしい女。日ごとに夜ごとに男を
うくまして深く男をあざむいても。よの金たらけさくの表の
めも裏もそこのこゆるまうしごぜんそのいとなみおも湯もとと
らずに。直視模床。男恋のしらべおもひ入まゝ
十八さて。浮くさの一座の名りふとゝ。ちてもものでもせ川八あ
らまほしき。お姉さまて男をあざむくいけんをぬきくるめバ。やりて八
たのしみなどらんとゝぞ
めでゝ〳〵ごきとめ。まさりおかたのみ〳〵ぞ。おまへのまにハ
なるまいぞ男をもきらうのちう。やのぞんでもゆずんせぎう
ぐう。かくておきくハまをとゞめなバ。ゆりかもよへゆりかもよ
やうくまをハゝとゝなりバゝしおとづれ人も
なくのうち死せバいんぐの車のむかひせいおそうて。



ぎーきへよりあつまり
の男ゝぬーもあもまでの。さぶまるでこのいい
毒ゝ。ゝ。名のうさん。おいくふんの髪とゝ。それげてあげ
なんー[く]おいゝんへゝ。毒さんでかゝろ男でもの
いまでまい。のんまりおなげきたんをおへ[の内]もふさん八
まついぎ毒ゝふーさゝろちもちげさんこきかさゝゝゝ
ありなんーもも毒いせぬ。おいゝんも男よつまるかいと
[七川]そんあこうんながゝ。ゝとゝんとゝてゝし

なんとへいこーつのまいもがどんぐりまなこ
おもわかどなぜう。おうふくかんかんかりいと。ようこそのまがき。

## ○ 其二

あてこ五郷（ごう）といへる大石の色黒あり。色艶（いろつや）すこぶる
よろし。眞（まこと）に唐眼中（とうがんちう）をしのぐ。痩（やせ）あんん肥（こえ）よ
りのこし。中（ちう）ぜいすてのみまこぶこと二ようなり
中（ちう）ぜいといへる者ハ六寸大丈夫（だいぢやうぶ）のよふなる種（たね）ハうへくへ
よりもうざうさ。もみの袷（あはせ）のまゆ。ぬぐんぴりまなこ

の禮（れい）ともいふべき和二重（わふたへ）のまぶちもあり。茶（ちや）どんも
中（ちう）ぐらゐの者（もの）ハ。茶（ちや）ぢやくもなく。茶（ちや）ぢやくもなむすび。
る水髪（みづがみ）なり。大（おほ）くひさいとうハぜ。ぜひそでなくぎ
やうにつのをくる。そはくらぬうんきさ。まぐんと感（かん）ありて
猛（たけ）くんがミ二三人（にさんにん）ハつれて。井（ゐ）やがもく入（いり）ぬる六角（ろくかく）とる
も郭（くるわ）のうぐいすどもたちまち四五人（しごにん）つみこみて。茶（ちや）ぢやくさ
ぐるまへ。つが口のなにかうひなき。中
ぜいせ川（がは）のうぐいす眼（まなこ）ぢやんもあるが玉（たま）のごとくうざう
和（わ）ぢやくを粧（よそほ）ひしきハ天下（てんか）なせる容（かたち）にて。抔（など）揺（ゆ）裙（すそ）と酔（よひ）たと
やうまでの名（な）中。ゐ下（げ）ぢやいまりくんぜのごとくにて。ちんかけ

にゆすり。鉄砲(つい)の貧乏(ひんばふ)ハあくさう八人。無益(むえき)ハ一つきあさうじ丼や
が動(のき)きをよぶうけとあゝゑむましおる。みき母らが。おこう国も母くもよ
[客] あれハ七川ゑ。ちやさおうなくろうき一。らくしそ。す
通(どうざ)てハなりやかせぬ [七川] とふ一なんしよへ
ト小ふ茶がら。五きもうとちちところようかきりしましの面さしと。
見とれさふせらで見てよきまやたやしいにて
[客] さアくちつておけなされませ。さ今ちよ川と一ばい
とおあみなけまそて [七川] そうでや　よふなりい。今ノ
トそうこうとらでさきてきようろせてんとあるま
おゆとり。
[客] だんぶなんでもあれハ。すておくれぬ。いりきおくさう

ますっ。なんでも一矢(ひとや)。[五きも] いんや。ありうろうふます。私(わち)
よびの。うんおとうし。酒でものんでゐるひうが。ましざろう。
ト小そども。うえた気ちくみ。なんでもあいまハいちえりあるうと。
そぞろうきこゑ。母るよう兵へ。そち強る客君
[客] なんとりし [客君] 七川ゑハ。おんもちがつるいとて。今
中の丁から。お帰りなさるうしど。ゆふべさらしりのやま
すらし。来て(さら)やてありひしさら。あんぞうさんがさぎき
のき母て。ぎんなろ。はれねもしせと。おつし母りましさ。
さてこそとうえども。いやがる五まき母しを。むりもこともない。松
田やへいきこゆく。七川ハみき母らと中の丁で。ちよ川と見く

らねばこよひぐらしこゝ
よものつゝ〳〵ぢうあつまる。風ふき
無いともみつゝ〳〵へあのくもの
のうまへ人いちりて。裳裾
床よりうへ。せうたいもなく〳〵ぬ

七川 さつ〳〵おきなん〳〵。よう〳〵ねなんまし。トいてなごら。
ずゐぶんきゝまもいそいをとう〳〵。のげもなく〳〵床よりり。
のくぐつ〳〵むふんぐん。まだ北雪の朝ハ。
もめがきめいり〳〵たり〳〵。なせそんあよ孫なんまし。

いつてきみ〳〵ぬ 五きせる きつとぐ。かんきん
とやるたしがのるこのゝ。かまつるり。きり朝こゝよ
まんこの出るこういなるくよる鳥の水ぐ〳〵かぬる
なり〳〵ハ吐〳〵てくさをはしめ。
七川 おまつなんたよかり〳〵ハぱ〳〵もゝ〳〵ハ。なるれども。
あれぐつかりハトゑ寿あるあ。抱て 五きせる ハテゑんのれバ
こう一つ秋著。よぎなるわけでこのらくとも。こゝ
てこらちりとハおきのぞれるもものしなれ

くくゝ笑さのハ大きふをそうきゝ。ちてこうつのんまう
その事にこゝとゞ川ろおものゞそんなきゝ三位亭物
とうおがてもぬーしゞ
七川 なんぐうおそうなんすとてゞくとなのおそるゝと。
きゝーたあらゞまぐきゞーこゝなんまて。つのいーまうがお
んようゞあんーてゞすてそれおなんすふゞこれてゞおこふ
ーゃもおゝかーけんどゞやまのあふゞ万とうゝいさ
老でごさんまゞそのまよ死まゞれよりうれてだよりせなゝゞの

うつでおぶりうそ卜まもゝーふゞよめとおーぬうひ せあてぬでも
おおなんすとゞちつとハりとゞふゞ外のきやくぎんへでゝいーてゞ
ゆくまをなぐゝねん妨ゞ去ぬもまなれぬーもぎそ
のかくゞぷゞきこけいせいとゞやはーゝいまゃゞんのこちふゞ陸ん
卜まろむくの、るまゞよりまげゞそゞうーまをよう
おくの。おまゞもゞめよもつ涙のつゆ。堂よおーなぐひ

五まつ とうーんもあねよゞぎうとゞてバよもまれなりてに女
のかぐみ。女ぎこうのうきゞものゞゆでぎくなぐ気ゲ

いさひ。もふなんかもきうぬ
あへいらさおむうひと。らる
やぐくゆうーが。七川う有
やこぐくそんうあこ
床のしがやふ

七川 もー立きやーくきんへきな今てやくこの女ハ
おもーろくもねえ。おうー
なあとこふびくきてそれなんとへぐちふおん
ていいまう。 立きやう どふ
貞心ハきぐくるくもこのうものと。思ようふいさあ

まく。教ごとよかいる川叶のさばはあもつくからう。せ
めておくようひまで。ふきこうもまやうさ
ぬーのふとんぞうすんしー。かなうまつつあと思さびな
おきまくー 七川 ソレそふいくなんそ口ふとめもと
夫の就よこのうせがみ。中のナでぬつとそう。時うむ
孫にくつけど。にておなんもとそ外のお人でうらーい
ふハ男なうら。うんバスえふいさもくーとふおんで
私んのせひー。袂の内でうる表面でのう玉くお就とうる

時ハぐれーいやらかなーいやらぐでけるあーふむねのーら。
あぶもはぐまきのーへおゝ。ねいいやまるう人ゝもおこーばゝ。ぶ
れるあはしりまーぐんゝふぐんとゝおってれなんー 五きゅう
それっそぐゝうぐれるめかーゝ。せーくこもこのうまい。七川 せ
うことゝよゝものともいそぎゝ。五きゅう ひーしてきつゝ。七川とつき
のけまつゝらげ 五きゅう ていまんゝ思のか。そげ
そたるせうる老。まの部よにい老が。外おもあゝら
れもれるう。おとぐゝかうゝ川ハゝを

ぬきてなすゝあきゃゝハとびいおきぐきしめ 五きゅう 行ゆにに
おぐいまるのぶ 七川 何ゆてゝハゝ。おうひつめて七川ハゝやう
ゝ老。ぐれやうちに有まこらんゝぐゝのあるけふ
ゆつとまるいーりまーぐんゝぎゝもちぎゝもおまるれ。
ろよるむきーだちのうう。思のまゝにそち老ゝまき
行めんかくかいまられませう。 五きゅう さんぐよみん
ならう。のゝためて老んぢうみゃゝのトいくれて七川ハゝやう
招とまりーかちよてゝきやゝのことゞもあぐやうよ。いき
てハ室を同ぢし死てもいい穴とおなぐりせんと。二世乃

## ○才三

まよう立まち〳〵八雪のつー
のるねバこう妖のぱたひよ忌とかこちーに月日を如也ぐ
関をなくれバぱくれよーそーもつー也のぱねよかやく初紋日
也川がその日の出ぐちにハぱびろ〳〵のおうみよ。ねぐよく
ぬいセー張糸のやうにぎく〳〵着つきハぬいなき洲えよの
あれよハ令糸のうしぎく〳〵ぱくーとつー。ごとふ
すぱうちにハさんりぐ〳〵屋さぬいの車ぎく〳〵その下よう祢

一ハぱぬり同ーきん丁ぬ
ぎんーのまでもぱく〳〵。うちもぬもてもぱく〳〵。ぱ
ぎくうぬうぎくぱ。その
ひるぐる。ぱひハもくうちやうぐ〳〵ぱくーとつー。ごとふ
よくぬるぱ。柳のあー
ちすぐぱくさぬきのつく祢ちまぐ。ちうきもうしと。二つよ
るーぱちよりとむもんで。ぱきぐふやひきう。ふぱのつー
かうぐい。松だう。うせう。おとぐのんぎーぱ。つのうしいこくもち
ういちり。つのーのん。かぐでもうぎーすぱぎーかきぱ。雪ぱぎ
むくうよえきつのーよハ。緋びろ〳〵どのうぐあとの。生ホ
ぬりのうきまま下ぱえいてぱ人のきれのかぐ糸とき
せぱいのかぐうよ彩ぞ〳〵八人ぱ一ぱーのぱでいぱう。まぞ

もしもまし〳〵団ざまーき。茶やのもの内もれし〳〵ま。たいこけのしやふくるまでごらごく〳〵の紋のそろ〳〵きもそろがゆ明ぶつ〳〵と。ちさくるまもの〳〵に。みまゝ〳〵がへもんごらぎくなる。あるべし。くゝゆそろふよそおいふし。せ川も茶ま小まちいそう。五ま〳〵八元日二日の礼も。そしてにして三日のよびしぜんごふ大ぜいのうちをちこぐ大門ふりまる。まんざい。おいし〳〵んへのそこへみま〳〵きんがきなん〳〵。ト。やのうていも。初ま〳〵ちまも郎のうちまも。みまゝ〳〵ぐはしし。たいこのぶんてつあまいきつい。きく〳〵ばくしごこれは。せ川角どのゝよ



おまゝこてこまりまず。せ川のあるひきくがまきでひろて。ぶんてう。二つのやまりはたとあまをげ。大ぜいやんやこうしいおまゝ〳〵。一つまあまゝやちんくくくくくの。ト人さー指てさみやん名とそろへ引ふ。青すいこの。呑こうもや。まぐ〳〵。ふれよ仕切へともなゝバ。ちんあるかふ世川ふ風流の床よりけ一ぐ〳〵八。周文の動ふ。紙南山の春の色。一角のむ番よ八梅と柳を折入。ふ書ぐんまを番ろ。そのふきくらいの茶番のうぐ。ろぐみるよいふ多ゝ。灿下よなら〳〵娘俳優朱儒山房が三絃八雲ひぎき。ひろぎ〳〵の杉風八。ろ〳〵ふ〳〵が琴のまよおまふんぎ〳〵。ふ〳〵が娘いあうまふんぎ

御くら拂れバこれなり福引じや。先二だんにはいりまし。はぎれじや呑込。
おくらぎき米五十俵がぢきさせまし。とつゝいかさぬ。二番まハ勝ち代わ
げ三つ大きりこぎやとこうのて。二つハ中くとのめくるさる。三だんにハ水ぶ
ろ桶おけにて酒らりし御人まの千両くさい。儀ハ素湯のおもいつき。
四番にハ大豆五十ひやうハ座いろきの山家やの子やし西川だんのぐ
とあるにかけしが、五十ひやうの中ハめであくる。鬼もかわ。宮ハ内
への。まめ毒くさいれバ内もまめに。子どもらまでおめでたいこの
掛おほしそふりの筆でさが、ノイリろ。ぐだんにいもどのひざのんだひ
これの五八にいれる。六だんのめでたくづきんハ。おぞく花づるこれ
とある。[東八] 花づるさん、おまへのづきんと、よいこそしくと
とりふてしらんかん。[花づる] イヤ見れちもつきんがいり
いまそ [東八] 何女のよそのづきんがかふるものざへ。さあ〳〵

そのばきんでまさかめそかげるつまりだなどんなれじやせう。そのか
いりにハいをじとたつ一ど。おまへまあてそれなきい。なぜとて
な。そこを時中にまそかぶりさ。[花づる] そんなむざとしなん
まそからず。ぜんじもかしでぶりまなんじさ。お客ヤアねいこへ [こきさ] むし
づるさんハづきんのご縁もまけまんハ。それをとそうなんじさ
よ [ぬれきぬ] おやア松風さんハござりしいのひざらぐにあららさんしさ
トどつとく。さしふ太さハぎつそのおまきすとし。げらくかきてぶめ
よしちやめん。八丈とらふぶん。あらしこ売て。二ちやか秋声のとらまう
部中の松山秋ハおわみつくせり。進鼓退金の例にまうせハ
のかめと御帰して。やらしとちんとし。ゆしハ世川が悪の
あがりてせうけしめられし。五十年くずか春してがさ。越王西施が
浣沙のむらごし。二世三世とハいせのあふぎ。千話百ひろ床の

[illegible]川「[illegible]も白きのだろう
なぞれいの新ぞうにおもひ。子
いつそうかぶ
かぎなんまい
もんこなるぞ
に掃ておのけなん。ぱそ
おそんあよきしくいってくれなん
[illegible]

うたんとまるめうかきぞぎんぺぷしきぐんーあういせぬ
の風「もーおいくんへアいせやのごてさんうおそなんだきうぷ
きんとやうへうまとかしなんもがせうでいとまうしくまうき
やまぎんにてかうてからぷ「川」のぷさんとまるてすが
そのくんはめぐこねいじやアなんて「風」めぐまいなうつて
うれよかまひなんまするまへのうぷまーかうぷ。
とよふのうぷまいふ「元」おいくんへうまいも「風」
町でがいぶんぐのうまうあうぷ。

もうでもうしばらくまいがおりてんへぞーなんとかまあさん
のためだと思なくて。おいやでしょうがのねさんのい
なんすっ通うに」て。おくんちおくんちおくんちおくんちおくんち
せんどもそふーとぎうぶんまでめこそこんね
たいしょうてのおさのこでめこそこんね
官位のえらいおいりやだらーちゃんのつらいすがご
ざうまぬどふぶんとみとせ川さんへよくもふーなさ
つてくださうまーくさーまいりんーてまいりんーてまいりんーて
なん毒ーうまれいーぬいがまアつまこてきてこなんー
そしでもつまとやてきこんにまちがいができちやア
ちんなよねでいまちんたらできるもできるまの
そんならつしやてめこそこんねのおさこ
やさて。ーよろこんでうきこおりんさうちやアぬーのおさこ
なんするのとしてたなんぞくうきこ今アいやのや
かてそんがきてきうぶんさんとのこなんをかく
つまてきなんーうまれいまこまいんよくまふんー

したそうもやっぱりおいらん（きゃくなん）でもさしんもするし
こうもやっぱりうれもめいもモシおいらん（だんなん）おいやでも今
さらいやといくなんてそんきなことをまし
かくまおうちゃんならつまでもなりいせ
はもつてもやらにしび。五まめーさんのためどきは（ようぶん）
しならどんふうでもおぜなりやぬいへ（けんもるあべやや）
（ハおきよきり山とさきぐろてうこまぜいそうごくくく）
（双六）
えますぱんぱひどくのぞこ。宝さろてはうふざーきのさきき。ふく
だいの次ハかやけども。時（やこ）とかくごるめかーるさんかもきぐくふ



だいぎふもんぶ。あらァこれもよいやぶうこれやてもよべあ
みんなぶ。こくくそしのめく（こゑ）
うたもいやぶ。ぶんごもいやぶ。子どもねをきてたいく。（ようくもひ）
しやの子ぶ。これうきやーけんのおりちんくく（の風）ぬーま
のはそきり山がうとめびぶーて
ふのきさきをひとめトろこそちをいんやあらァその
きさよう。ちまぶ気をひとめこういんのうしもみ（ぶ）
とそおしがするぶ（トりお山よくやひけ店のこゆうーまこうこハ切く）
かてくく。きり山大じんぱくをぶきんよあさぐう。庵

のトーヨ大ノぞ〜。むセ〜ょよぐうみあ〜に 〔くま山〕もー〜おい
まんぞ〜ぉ。ももおいまて
らんハ今〜ほうがおころいまるくぅ〜ぴっちぐまいいーたぷ
んでおもしろいそ〜でも。おきうセなん 〔きう山〕毒くなろ
なごのそう 〔ひろ〕おころをときつくつけてめつさうあァお
さまういセぬ 〔きう山〕ハテこまるものぷ。おまごがぱっとてやみう 〔のぶ〕
ぬーやァそのはうがぷきーいでおまいも 〔きう山〕そんなふ山さとう
を酒でといてひなさまへつけてやうか 〔のぶ〕おァおァなんでつう
いとく 〔きう山〕いとぎん山のむら 〔くま山〕てやおァねづこう

業ぢやァつういセぬう〜 〔きう山〕なろ 〔くま山〕ねづよしるきやにもつて
すうやおづういとふよ トおんぞ〜ごもこ。ぜとうち 〔きう山〕せ川くぞみざ
〔のぶ〕つんじなくとか。もふおつほ
ちろもいてうこてきてそれろ。トうおホへうさま 〔うきよ〕のぶさん
おいしんハまぶよくつういセんどうみ毒のセねぷろ〜てあうふて
〔きう山〕てま〜ぱ毒〜こ〜おやぷ。医者ふなんばい〜 〔のぶ〕ぐうら毒うつを
そしてでもぷ毒〜ぶからぷ。ていけいおもしいものと トおうこうにぷ
ごうそうにぷ毒〜〜と申ろ。そしようも山大ーじん 校よまうセ
てかとひーが。ひるおのしこよセ川よむう

きり山　コレ　あまどがこれうごかねえともむこうヤレヤレ七人きりの身けざのと。
一イびきの事もとゞめとゞめとやまぬ（七川のきと）きり山　たとゝへをにも
わるーぐあるものとそのやうにいうてそんな人をとゞめ姉（うれ）いうう
でもこのまゝでゝわるーやでゝらしいすてまいつてぬーにかぎらぬのきあ
へゝゝくにとうしぬ話事ゝゝかいゝーいうて（きり山）ハテ今ど
きあとゝぬ女房ゝハあつゝしいそのうけきたい。きてぐふーどや
（七川）なんぐゝまたぐうあんしてゝも。このくまうぐうらしみてゝえかうし
いとぬ（きり山）きくにもおよばぬ。まぬへのまんぢゝぐうらゝ。そんがまさ

なうぜこゝをいう（七川）そのまゝぬがまゝぬて西れハよけまどゝも。今ゝてち
ちこのつそがつきてゝんのをんハきうゝ
外のきあゝハ肌（はだ）みれとゝ神ゝさんへちうしたちーなのけれうのおう
ろまうおさんて（きり山）ヤおまあのうりぐうらいかゝだうゝまゝけのせいの
ゑまいきせゝ（七川）外（ほか）のおうゝハまうゝねもそゝせいをんをうあゝ。
けせ川とゝ思なんとうゝとゝでせのゝとそれもとゝきせゝゝぐきとまいゝた
なゝバゝバテそのときハぐまうとも（きり山）そふやふんあゝだうぜ西れ
きせゝハぐぬ（七川）さァえゝとゝハぐやをうしぐどゝもとうきハあのち

かゝもの。こさうえんなゝぬ抱がありやせんそれもかゝさずをてかつてもきう山
こゝを抱とへ金のすゝりそれからかゝいた毒ゝろなかいもの。ぺゝの世そ。首のとぬかでこゝへうきぬ申た。だうとうきか出もの
つゝる者ぺ。そしてもゝましつきかゝ。せゝこゝとゝなかいそゝてかゝゝ金へゝく
らぐ川たゝーゝ百あとまゝ毒あでつゝかゝたきう山そんあゝあしゝ
かゝてあるからゝ。かゝ祢とゝ七てきせゝとおつとれ。トゝゐとをげかゝーまぜゝ祢ぎ
とゝ毒とへ。のゝひきゝさせなつて川うゝがいあんとそふ。ぐでゝゝ祢の
ついまきう山そんあゝゝ毒なゝうゝこせスあゝれてのそんよく



うむゝうんあがまゝもぐゝト注ゐるあしようきう山よゝ山五
毒ゝまんにゐしてゝゝぐゝの神とゝゐあんまゝ毒ゝに。ふぐん
すそしよつけても。とこかいなんまてるゝうふもはぜても出あんせ
ん。川行つの円とあぜゝゐまゝひなんた毒ゝぺ。どこと弱ゝなてもゝ出
れいぜぬとしてそふ川山ごろあゝうゝそてぺゝゐもきふゝかゝる
かゝるのゝたゝえいんまんにゝてきゝれてそれあん」トゐんぐゝ七川
なる毒ゝのおゝゝろのおゝゝに。今で毒ゝむゝ一番
うゝ。秋よゐゝねぐまゝ山大ぐん。毒ゝ眼もゝまゝとゝようふもれそん
十ゝくの。ゝゝろゝゝつまんゝゝもゝく枝。つゝゝゝ抱とあんぐゝよ。せ
川ゝゐまゝ家ゝぺ。今ンゐ抱ハあんでもぐゐゝまんとゝようせの

のるも祝つてくれるなにすでもうういやぬが今きまつたときゝてきまりしたものをそれをいまさらどんかうといはれてもぬつ〳〵ときまつたかくごをしてゐるうちが如(それ)てから今立まうさんそんやもとしなんまで女房〳〵がうるさいなんとやまうるまがいつてくれるそのまゝ呉のわる〳〵(まゝでもうういやさに 山)外よねへごろふ女房とふもの〳〵でないやうにそぬーさそしていつがうそどもハのこまでほけのぐーとそつてまいや友だちめ〳〵(ふね)ゐてもうまのびまきのとうてそつぎやぬけどものとそれで仮りが何つるまでおまへこゝにまゝでもうういやさにしてまつたくまでおハおしがまゝのぐんじざいまでぶからのまで〳〵ト(まで)やまいかたこそれがかんがらなんとおもつてふしぎ〳〵 川 そのぐんじさんのざいまよハおんしふふぶ〳〵 山 そふまゝそろ〳〵とぬーハまむと思(ども)るうハやりまゝ〳〵を見るのぬーハまむと思(ども)まぶんとそ〳〵みいんのてしまゝ外のまゝハ化(ば)ともぬーうう山ハそつもふい 川 そふひなんそのぬーうなんとそれの

まうのまえてよまつてたきゞんがしてもまてこなんし

まり山 ざしきよやてやまぶしぶふハ 四川 そそやまんしぬまゝ

のるさやうにむりぐろくなんまを まり山 そんおゝたりぜ事ハゝ

うめ 四川 きやうおきやかいでハ まり山 ぐちがつるゝと

りふるやうぐちもたゝくもいとぶぬがやぶちのいまじやないろ

四川 そのいまゞもぬゝのぶのやまぐれもせぬ円うハ まり山

おとゞがんさうこがふなゝばゞうつぷゝ勿論せゝ 四川 つろ

かつて山四川あそこらゝゝがやあ今とふ丹いぶ

さかさま水をやふゝてこゝをやうとべゝ声のゝうまやいやや

まびまつて 四川 あとゝ、ゆるつて全をよこするあでも二

千あでも四川をうけてつれてこゝ四川ハそらゝゝやゝ四川ハそこ

ぐろうちぐろうむねのゝこらと 四川 それよつ丹てもうらめいゝ

うんまうふ事ゝさんついゝこゝぐのたうもやせぜやのんで

まおとふやうそうやふ事ふかいもうお当う此

此なんぎやといぐんふもえ事ゝ。教ゝおふひもなゝぐこ

に仔して。おなんまゝゝやゝ四川ハゝくおやのぐちの

さう沢やかなよそほひをしてゐぬ。あるまの〳〵よぬ。きるんぎ
今又男うけせ〳〵れてゐ。五まゑ〳〵さんへ乙もとでやめてお
ぬるが男のいてうけトおほめる。一と間をたて[図]そこお
い〳〵んへ男うけのおとも行むかを。下向でこんかきいいて
なのいてぐつかりいたトおんかきいろれをおんで
まゑたゐ。思なんをれも。でなんさまいものでもうらいやぬ
が。ぬーの男一つゐ。それでもすこいやせう。五まゑ〳〵さんのた
祝をやど〳〵なんしたその力だ。まりなん」てどの今で

五まゑ〳〵さんこのいなんさ。きく〳〵山さんのれけらいが。五まゑ〳〵さん
のいなんを玉とお。おつ〳〵とらのよがをいるふうろた「とすお
なんて。へこのいれなんやせう〳〵。それが。かるおう〳〵ゐんす。
ゐんが〳〵ろちく〳〵が。ゆう〳〵かものらふるすでも。ろいるすだろう
もこのいまゆひ。ゆうとみて「これなん」[四]たのもーいるよくを
つみてこれなんた。ひとやをうろうろ三ですでふおまのふとおい[図]た
た。おんこのいんとまる〳〵ハ。五まゑ〳〵さんかんう〳〵ど。このいろまでハ
山かだ。とんふきめもいとひやおいやぬ[図]そしてでろちも。

おちつきいーた。サアきぐ〜し」に、雨でもちつと。おつぐうなん」
まう山よちう。もうけよう。せ川う外の志ろ九百あまり。志ろ〜の入用百五十
知合ゐのとしてよひて右あつて。ねぐ〜の一件おまゑバこ事ゑ
志よのよろこびのまるもおもしろねもせ川自。外んの千年の玉のこーと。
あよろこびうこてせ川ハ外うさせさいほからう。こんぐまめではしあなん。

せ川

ワしやもうけばさんしてやきいこ
ふさすこ〜とまんなんして。外ゆ〜夢うとう〜志ろん。かろ〜に
ろづ〜いなんとおくてれうけてゆ。五きゑ〜さんがこのゆ〜でゆなん
して外でも志なんと。外ろ。おまゑがもよろ〜に。せろふぐう
かくなりいて。たんとろ〜とうけゆ。「がきものもくーりんぎ」ゆ。

のこうにんろよ。ゆうはそうからゆ〜ゆ分けなん」ほゆえんよのひゑん
たらゆさおのうよとたのこうはよ。ゆ〜
なく声をこ志ゑをーどとゆ。たもとう
外と云ひせきうゆ。ろうぐとのこ
君がろろむう〜。夜秋の単手ゑ
も両一ゑもひとろ〜形ろ

## 〇 寸五

まう山。せ川とう外出ゆ。ゆぐ
にゆうつけられゆ。一どのそーもう

がもむ〳〵のぐんぐんはきびん〳〵とまゐりがとにしめせ川ぞ
そだとゝゝぎけ[ぐ]ゝみてくるだての世川がぬぐきうしやるをゝか
きばゝんぐんぐんはそゝん〳〵きー〳〵ろて。[ろ]もー〳〵おまへ食はまへう〳〵
だんおとゝおきゝ〳〵いちめまするう[四]きらふゝそゝぴけ出きれて
こよふ〳〵[ろ]ほしおく[ろ]。これびおあとでさるけゝしよ。なぜ
おんとゝおちしまゝ。お汐のたいじよあるゝすとゝまゐふけちふや
らゝでもござりませぬ。おまへもまゝつぐむおいむきそおひよいと
ぬきのげゝまゐかのんふがゝまでゝぴつせゝつきのふつまりゝ〳〵そ
れこのんふよずらろていたおまへ立まゐゝんゝおとづきもおさ

らぬゝぱのんまりぜゝがごさうまぬぞゝ[七]こなさのざいまゐまと
まゐよ。ぴんまそのみまゐゝさんまゐゝはいなんまらゝ[ろ下]まゐゝとはぞう
だちくせゝめ。ふまろちにかゝまる。まゝおまへもおよおで
なまろてぴよふまゐゝでなのゝまきまのゝそのふつめに
かいらしるものゝぴしつぼらろて。まゝでもまゝぴふまる。ゆ
めてゝまてよの中にさうとはるい思つきだゝゝ水とさゝみ
なゝ[ろ]をとげてもゝおまふおとことおもしろゝゝてしならゝそしんぐ
たのーみまするぱござりやまゐまのゝ。[七]ゝまあいぱゝんかゝ一まあつ

てそなさまでけ[illegible]しづれをうてくるのう、人のおもよやーでもふい
はーのうい。ト[illegible]まー、かれんバ[illegible]ばほんバ[illegible]ばー[illegible]んでもわにしてもあー
よびのつめとそう[illegible]ふゆふんぷとおさのきんさらぷん
なーうとみでつれどうて。立まあーさんよなふよぶぞバ[illegible]サその
くだて。おまんとまんまはぬどのがわそバうくのくる
ーわさそのいとあひよもくふうでぷうーぢいとはしがのんかい
ト志かー[illegible]なるまるおうにぷおうとよ声ぷぐんじうろてへ
まげきうぐー。きう山久ばバ[illegible]川ふそおんあーくの
里いたコさんやおちやとあげやまろあがーさんとよんで。



おなーともま志ぞーてはしだんあ[illegible]ふのはぬさんう[illegible]の
たうこの行なんまからぷちょうとのついうて。今みとおこし
ふんたりうちもうふぷちうふおうよふのついまからちょうと
いまごいと。まいもんやアきがまみいはあ[illegible]山[illegible]そてちゃうか
ふまいぐか。けまぐまでまよとまものがもあうふ
まーになつてう[illegible]川[illegible]そんふアよくもつういせぬがぷはいむうふ
だうぷさんぐかそよう[illegible]かつてもぷいうれそまふものてこのういてく
[illegible]川[illegible]そうとるとそもぷやうけそのざこで。人のうるめもつる

ものごよ毎ねん おまも今から又もまいくいろやあるぬ。
十二 ともの志ろくハいてう出よ トすいうけーきやるくそくきぴまるもやまく
ようのそうきーぜんひゆーもねるものようーおんきびしてー大のぐるとと
三四人つけおいてちよろしてうすおやくうぶんのかんぐ右
たりいまもととくそふきりかんぐ
はぬゃあのまみせ川がたもとくーねバのぐんぐ
かよぴぐまでがとくーねバのぐんぐ
まくーがーようこととうぴらけでのかんぐ
六ぐんおいろいのまーねんーぴまきうーもとらくて
めのうーた。六ぐさきくいてのまぜらう。 そてもい。
六ぐのまねいでいそうおうんでござくやまぴそんかご代

とうねん 六ぐサアくきまの志ろうきまの六ぐこうやア
なんでござくやまぴ。おうござてござうやまぴ。おぴーふうやすか
六ぐーサ そしでいぶぶーの一メときやーぬいう六ぐおまくも
やうまるとくふうこうれがアまくふ人でものやアまい
くて一まのまふあら百まぴ。百んふらくちまんがでいげい
うもまままもんざふ十ものやけくがのくからついてるとのこ
うんでまやアたぴのつくまものまぜやアなくやまぬちて
きとさらしくうねん 六ぐふ 六ぐ今のくアぴみんもふーぬい

あれそんからゆるそうでいくのーやアねいぷようまんよ[ろじ] コレナ か
てるうぃ。きゃしおそうかぷなんがつとことぷでふあってぬ。け
かごとでんどくうはぎどーたらな。そうくみ[わんこ]むざア
おいぷっつぎか「て」てぷちょびるぷいーしおそ七川はきのどくのぷ。ろじ
きれでのこなんて。かごとういでくれ[ろじ]ん。[ろじ]こととやアつの
んまくんらんどぷ。おめ「の」のよにまーづきれいどうーおくかし
もつてあってやまで。これつくとまーにもらいまーもまつてあるが
そしもどーど。うつくらきごとと。やまし七。サアうつまさんあい

んでいまふ[ろじ]さきまでそうまーぬいぷ。おとうふる
のぶ[ろじ]ぷどーがめ。おてまできぷ。おまふるるぷ。たあことと
つくく。つのまさみどでぷてどうおよいぷきんにむまきひげと
らぷかごうまでいおきるやアかくぬいぷおつまじめサアがーぐみ
つのいぷどー トセ川とかごもつまみぷー あごんのそふこそそうま[ろじ]どうがめら
ちごくとうせるやつだぷ。おがおくふ。まふぬいまー
あれらもうつじぷいよも。ほいちふぶぶうまもで。らいと
あひろいなるしかやー。まさびれあうくら。おぬ

いっやせう　七川　うごこるゆうまさゆくぺらぺんこるこる。ふう
いーたちつてうついてこいやせー。トうどう五もたくー七ー仲そ
の南ハ玉川ゆきてどーくてひっくもっきも抱そごきゝ五ふ
うこ。ゆぶまもちゃぬまんのやこ仲ようすぐくむーのうし
そうふー風とまのこよ。ゆ西こなくこぬーき孫もまーき
人よゆふう足さよ。いろうふうそどうくふ玉川のねそーよこうう
七川　ワさーやまきうよ。ふーがぶつてきいーた　ズド　おまくく
さらで。ごくなるちあアごみもあぬが　肉　ふーよ。立さ
ゆーさんよゆふまでいきとまあてぴくふどよ。きつういよ
まふんまふ。まー久ーぶうでお三ゆーさんよゆふゆこと

ゆんまりぬてさよ。うしてゆ西こみくアくさきも
ちとどこいゆちてかくもぴ。まふよろうきこゆーだぴこしからら
ぬーのいなんま五ぺぶしぬてなるく。ズド　もしも去よあがたい
がいこ三十里う四五十里さ。七川　こなさもアくてごーふぴこん
ふこといふ五きてもどしてうまふふ。ズド　いまでー八せぬ
ふくきーふもしがおまくとりひころ。大ーこかけさぺふん
のくゆく。コレつゆまでくぴこ五ていぴんぢーうせたよいゆでも
おでもゆゆーがくもコレやぴくーとまふふ。七川　さんふゆーき

ゆきんす。何をせうと七川ハ。ぞんなりおさへ〔ぐん七〕これハし
やるす。あなたをつれ出そうとかゝって。ただ吐てくるしハお志をも だましこかゞとのだんしこ
〔七川〕それしがかんなしい悲しいが。此子を産ひすてゝみおとし。
ぬみいじさと上がらハ。今どふなりともしませ。〔ぐん七〕イヤそこ
までハまかるまひ。そのちゝでもなし。いつすハ。ぞん
死ハきゝたなくそでくハきいひなおくこぞくもんなら
すぐに毒をかふ。弟しお毒をしまあころす。其さのがうが
生死(やうじ)のさかひ。毎やおての死ぬ(ひど)と末まいハ〔七川〕イヽ夫や何でハ

弟いが。その毒やをたべさ。にんまりでいらふからへ。五きゝやりさんよな
ふさよ六十かとはなりと女房よなりしろつて志ぶいよ。なろふか
がなた毒し。何としてこれもおがし〔ぐん七〕五き毒りくとのさまへ
と。何の死ぬがらめハ何との月の。さア死よくさぐつて七な中
しばよなつて毒まつし。〔七川〕その毒やそれなるかんのなう〔ぐん七〕え
うめいりしてくるかうじひえ卜弟　トいひつゝ七川ハふところにして。大地よ
ふくつうして。むの男子を出産(しゆつさん)せしが。幼(おさな)のうちんぐふよ
血暈(けつうん)にて血の死めがう。七川ハおしや十七の。身心脳乱(しんしんのうらん)の形これ
秋のつゆしよ咲ちりて。此松原の露これと消へてそうなく。さだ〱よ
そう。後悪(ごあく)を死のさう出ぐんし。七川が死がいへよるとさしこみぐらい

ちゝと一つこぞねとうらんハはしうまし。草と松とのうるわ
つらいや川がきびいとこゝろとなぎんあるうか。玉川のうまし
ふくまるいこみ。あしまうるとなうろう

○

## 浅川ゝ一八句

ひさーのく向ふまよもうきぎまうそかゞみ山としてけるハ
まうきし峨さうそ岩ぞやそくらう。毛河のおれハ禁とめぐる
こわくをハ手無勘ぶいりがこまして天外ようつなる。ふよハ青海原
雨よりもめハ富士浅間ぱ。波清のしし山の形青おゝて。弁のくらのくくるれぱまま
好み山とにまうまん。ぱ山まうよ外和のひくすす
なく。風色まう天外の堂をふ。秋よさびのる虫のるの切しふ気とまほめ月よそぬき香

そくき。琵琶うきなうすおこう。ふきまうそかき景色。ふよ吹き
なる風よつまぱ萩のおとくをおづくハ。ふまるつる女のまこへて
立まうまん。おくとのけてぱんまう。五まゝ おくとのけてぱんまう。
女の声。狐狸のおとあるかみとてぱうとを
人まうゝ 七川 そんまものぎもぬぱうやとのふ
五まゝ ヤ、そのぎとハ。 七川 七川でおさんまうのふ
五まゝ ヤ、そのせ川ぱ氣おとゞぶうてあまて 七川
ふもとの人まうまうてきいた 五まゝ ハテよく聞てきる
るぢやぶ。そうてものぱのそのだいそいまるハ。 七川 ヤまる

ハぬしとわしが。き中ニ。まうけした子で。ありしを
五郷
コレやい。その子ふうまでなさけなきの。ぎりをたて。ちゑない
お前に。それがかゝつてわが身のうき山と身をよぶ。けざされしを
なお前ハ。ぬすみひきかけ。さまぐ\のうきなんぎに。ぞうらう。なりて
死ぬ事と。思ひくらし。今もまて。身をまで。事もふきてそ
ちよ内も。かく。このせ川めハ。まよひうけているであらう。
其の後も。そなたぬ男ゆへ。くらんでもおそれると。
いかなくあやいか。そうして郎人をまいりて。
よう／＼ときけバ。そのせ川ハきり山と身のにうけせ

きれ。こがらの身が。尾もいまでにきのまゝをとでおつくしぎ
しる時のおれがれハどの身した。ありしとおまへおのれをみされて。
それから今ハあのまいをせし。あいそもにきまゝもつきたてむ
ねんのおふ。ごとあぐしてい。此男ハ釈の事を。うけて。提
事に世をのがれ。雲と衣とすんでも。おのれと。とるとたちがら
よたづきとうてりまして。そうでふんづくらみの露。ぜ
川そなたまたおれかぢ
せ川
りけまでなんせんうへ。きらハ。ちぢに思なんそのも。その
しらぬ身まれどぶんくのその身けハ。神やさけみよくわきんど

むつかけのごときなんぎ。このものもよ
常ひときやういやぬ方ゟけ。せゟ(ル)
人もなく〳〵部(ぶ)とうけごゝろし。志ぬる今となごら(ん)もどゝみぞ(ん)
世で今一どのおて(ん)ねこ(ん)ばゝと
ゝく〳〵ぬんむかごゝきゝとわいぶまゝ
ゝみおし。志ぬるおとうのかゝしてぽんてあまでくるゝもの。ぶ
こたいてやゝ。おゟもなんぎふまゝ
おかゝいと。下のしつゝまゝぜて。やゟ〳〵ときゝものと。ゐの

てゝ化いと気もゝ。なのんまゟむこ
かなゝ〳〵おさんま。五まゝ なんさゟ
なゝみざもゝそゝふぬるいゝおんかその
とぬのとゝにかゝこゝぬかゝてもゝワゝ
山がおゝゝこゝやゝつゝこゝゝゝ
よゝいきゝゝをたてゝゝまゝでゝげ
てゝ貞女のかゝみと。今の世までもゝて
のまゝが魂(たましい)ゝ附もゝゝゝゝて

ドイ、もまへの女かゝきせゝこ（しゃこ）が生（は）えてきてゐるもの
汲み汁もたんぶんにあるぬが、あのいてゐるみづは、
おふろにはいるのにいゝかとおもつたが、おまへのやうな
てかさゆゝしたおかたがはいつたらおいけないとおもつて
のまへにもそこにふむしやくなんかをそこへおんせ。
ふかひたしてこゝへひとこと書いてくれ」
そしてこの世のみやげにさらへのみてゐるむかふ
ぐすのせいでんをするまで書いてさげてくれんかと云のをうけ

ひやうたんのやうなかほをしてゐるのがくもんせいぐらゐで
まへまかりでるあつらしいとまの人にかゝせて、それを
おまんまごとのやうにひきよせてひとこと書いてくれんか」ト
そんなにたづねられてはこまるが、ひやうたんの中にあるものを
くんなよいと云ふのをうけとつて、
「ぬしはなんでこんなものをほしがるのか」ト云ふのをきいて
くれまいかねど、かあいゝよめ（のそこ）やものだちと
おろしてやれなんてふ。ト云ふのをうけとつて、コレがんやそなうかんの

母さんがおつけあきらめなさいそのの
そごのまみるめとこみてもらえんでたもんかやそふ
たとそそるかんとつけまし右ぐいい大せつよ(のまで。
かりつつやたこんぎ糸ぐ。だこ毎るとてめいぐ
やからけそがかんぐをおままでやいいものこがま
なんとみまて 許ぐんぜ書きまとかうもいおまやぐ。ののど
書の指をでーー
きおいえけごうよ。おこうおいいけ立きやうんまでも。う
きよいでおまんなら。秋のまこ

んぞのの色のたのーこと。仲心のみからうやおす
がつのくらなんとやいはでけ山まくき世とのれてれな色。
けしが忌日(きにち)とけとて。思(おも)出(だ)てもれんてらおまのの口
から一ぺんもうの声(こえ)がめぐの形。巫山(おさん)のむうまつらね。
の一まの雲のれ雨(あめ)とけ思(おも)てれーまきの後(あと)とや。
しらのうは雲(くも)つのもーこんまれ使(つか)まぐけ里(さと)ぐるも雪(ゆき)を
かぶるあ色。あとらもれ牛(うし)馬(うま)車(しゃ)の炎(ほのお)車。名(な)
まへつはしおさらバトうふと思(おも)バーまんの後(あと)

ヤレまてあがつぺらうんさもんな
のまり丸せもれ トおくるバ
ろて。幽魂(かうこん)あよ弱(よわ)きてゞさとと
今うこおとせしさゝめる。ふし
非ごゝ九おいごいなさでる
ろか。旭日(きよくじつ)昇(のぼ)とともに生(う)ド
名よあふますがみ。私(わたし)すさ
名香(めいこう)よ向(むか)る井(せい)戸(ど)。北(きた)むろてるとこまぬき。浅川幽魂
頭(あたま)仏果(ぶつくわ)とっ志バー念(ねん)
きぶもうよ下(くだ)りまるのうえ。なづけ終(おわ)りき



○やがて亦(また)仕掛(しかけ)
の影(かげ)ぞゝりてゐ者。此面(このめん)よりづけに。色角(いろかど)
をとゝすしバ。志がんと女(をんな)
内。踏(ふま)より悪(わる)多(おほ)よりな手す時バ。考(かんが)ふ柱(はしら)も能(よ)
るまあるもの之。○色男(いろおとこ)をせゝぐゝ。志ゝをあ七。
はのなさゝゝなる男(おとこ)バ。
てゝゝぐゝ。ゝら男(おとこ)とせゝと。女郎(じよろう)のんなのゞよふ
まて。ものよ変化(へんげ)志ぐ

新ぞうそうみやうてるまで。よがくにまごころのこう
ぞ。ちよこと見とゞけてもらふべー
○兎角(とかく)ことを引つもべー。康元(こうげん)たとかー
ありうもみくやるべー。三年(さんねん)あとのこと。たらふらた
やるがよー。○初(はじ)めの四度(よたび)の肉(にく)ハ。間(ま)をぬくて追掛(おつかけ)
てやーやんべー。印南(いんなん)のおがん。叔父(おぢ)がうそ
いたで仔(こ)まみても判(わか)らよう。まこけのせいの時(とき)た
うすもなるべー○口中(こうちう)ぬだ。ふこまー。



さうふうこと化粧(けしやう)。白紙(はくし)のまひハ大(おほ)のおやん
○い年(とし)こらきす。けつ
大(おほ)のこんもつ。すぐて。まつこさうよふべ。まつ
内(うち)まんま情(じやう)ある色情(いろじやう)と合(あ)ひー○抱(だ)ごと本(ほん)
仔(こ)てて。さいのうよふ。色(いろ)まてなく
なうう。まの(よ)私(わし)すが。たがの(な)本(ほん)ありう○かくこともこうまのりやーいうまくー
○ついまま(あいま)教(をし)ありてまこそこしやがまる。

1370